

3年道德通信 第19号

第19回『わき役の力』

「スクリーンで活躍するのは主役だし、タイトルに出るのは監督だけれど、実はかげにかくれた大勢のわき役の人々こそ、映画を作る主人公たちなのである。大勢のスタッフや俳優の細かい心づかいがあってこそはじめて観客はその映画に愛情を持ち、笑ったり泣いたりすることができるのである」これは映画監督の山田洋次さんのことばです。

文化祭直前！！ということもあって、みんなの意見からは一生懸命クラス劇に取り組んでいる様子が伝わってきました。



みんなの意見

- ・まるで人間ピラミッド。一番目立つのはてっぺんの人だけど、周りから見えなくてもその人は必要。みんながいないと絶対に成功しない。
- ・わき役がいてこそその主役、改めてそれを知った。
- ・リーダーはみんなを引っ張ってくれて感謝しているし、音響や照明や衣装や幕絵の人たちがいるからキャストの人も良い演技ができると思うし、みんながいるからできる。みんなに感謝。
- ・自分は舞台の上でただ劇をして終わりやし、音響も照明のことも気にかけてなかった。今日の授業で音響の頑張りも、照明の頑張りも気づくことができたから、もっとがんばらなアカンと思った。頑張る！
- ・裏方もわき役もひとりでもかけたら劇が成り立たないなと思った。
- ・クラスの劇の中でもたくさんの人がいろいろなところで、自分の思っていた以上に苦労して、工夫して頑張ってくれていたと知った。一生懸命なみんなにめっちゃ感謝したいし、自分の役割もしっかりして絶対成功させたいと強く思った。
- ・この映画はこの監督が作ったというけれど、その監督だけがすごいんじゃなくてそれを支える人たちのほうがむしろ重要なんだと思った。
- ・僕の役割はほんの1～2分だけど、クラスとしての役割は40分間ずっと続いているのでそれを全うしたい。
- ・今のメンバーでできることに感謝して、いろんな準備をしてくれている人にも感謝の気持ちを忘れずにいたいと思いました。
- ・見ている側はどうしても主役とかに目がいきがちだけど、その裏にはいろんな人に支えられてすごい物ができているんだなと思った。

あなたはクラスの中でどんな役割や責任を果たしていますか？

